



令和8年度は果樹カメムシ類の発生に注意(越冬量多)

県内全域で、果樹カメムシ類の越冬量が平年に比べて多いことが当所の調査で分かりました。令和8年度には果樹園の飛来が平年より多くなると予想されるため、4月以降の飛来状況には十分注意しましょう。

1 越冬量調査結果

(1) 【越冬成虫数(チャバネアオカメムシ)】

令和7年度の12月中旬から県内18地点で落ち葉を採取し、越冬成虫数を調査しました。捕獲地点率は、過去10年の平年値の2.4倍となっています。また、平均虫数は、過去10年の平年値の4.1倍となっています(図1)。

(2) 【越冬成虫数(クサギカメムシ)】

令和7年度の10月上旬からクサギカメムシが越冬場所として好む隙間トラップを計4台(2地点、各地点2台)設置し、越冬成虫数を調査しました。平均虫数は、過去5年の平年値の3.0倍となっています(図2)。

2 今後の発生量予測

令和7年度に実施したチャバネアオカメムシとクサギカメムシの越冬量調査の結果や過去の発生パターンから、令和8年度の発生量が多くなることが予想されます。

※チャバネアオカメムシのトラップ調査は4月から開始します。

調査結果はこちらから

→<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/>



3 防除上の注意

(1) 果樹カメムシ類(図3)は移動性が高く、飛来は園地間差が大きいいため、夕方または早朝にほ場周辺も含めて巡回し、ほ場への飛来が認められたら早急に防除してください。

なお、果樹カメムシ類は夜行性であるため、薬剤防除の時間帯としては、夕方が最も効果的です。

(2) 果樹カメムシ類の加害(図4および5)は長期間に及ぶため、継続してほ場の観察に努め、防除実施後も園地への飛来が認められる場合には、追加の防除を実施してください。

(3) 有袋栽培では、袋掛け作業を早めに実施します。なお、袋をかけても、果実が肥大して果実袋に密着すると、袋の上から吸汁されることがあるので注意してください。

(4) 薬剤散布については、農薬使用基準(使用量、希釈倍数、使用時期、使用回数等)を遵守

するとともに、周辺作物への飛散防止対策を徹底してください。

- (5) なお、最新の農薬情報は、農林水産省ホームページ「農薬コーナー」の「農薬登録情報提供システム (<https://pesticide.maff.go.jp/>)」を参照してください。

3 関連データ

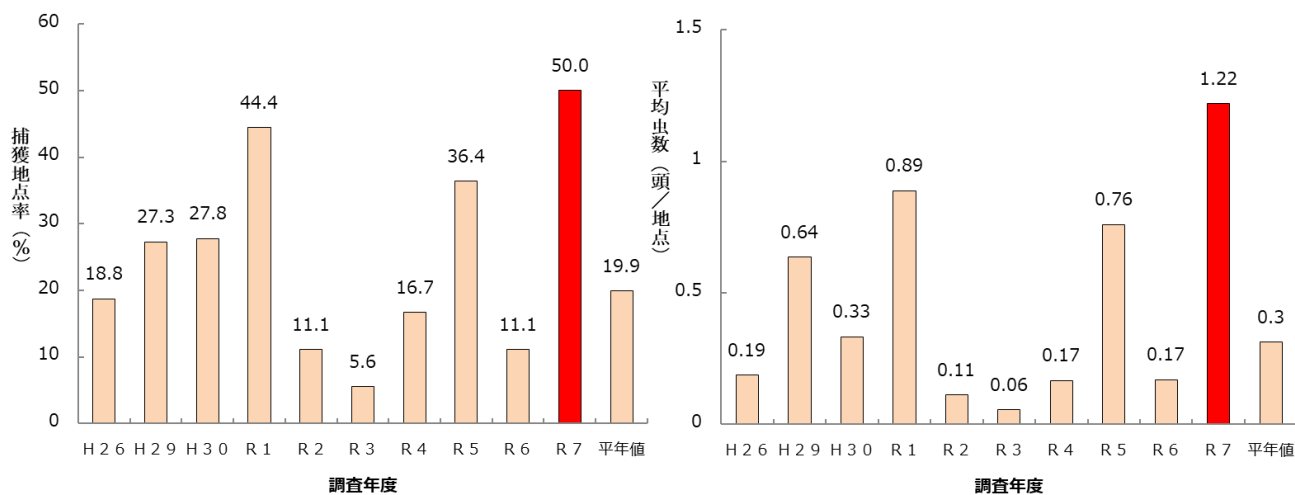


図1 チャバネアオカメムシ越冬量の年次推移

注1：平成26年度までは見取り法、平成29年度以降は篩法により調査しました。

注2：平成27、28年度は見取り法と篩法の両方で調査しましたが、調査地点数が少なかったため平年値から除外しました。

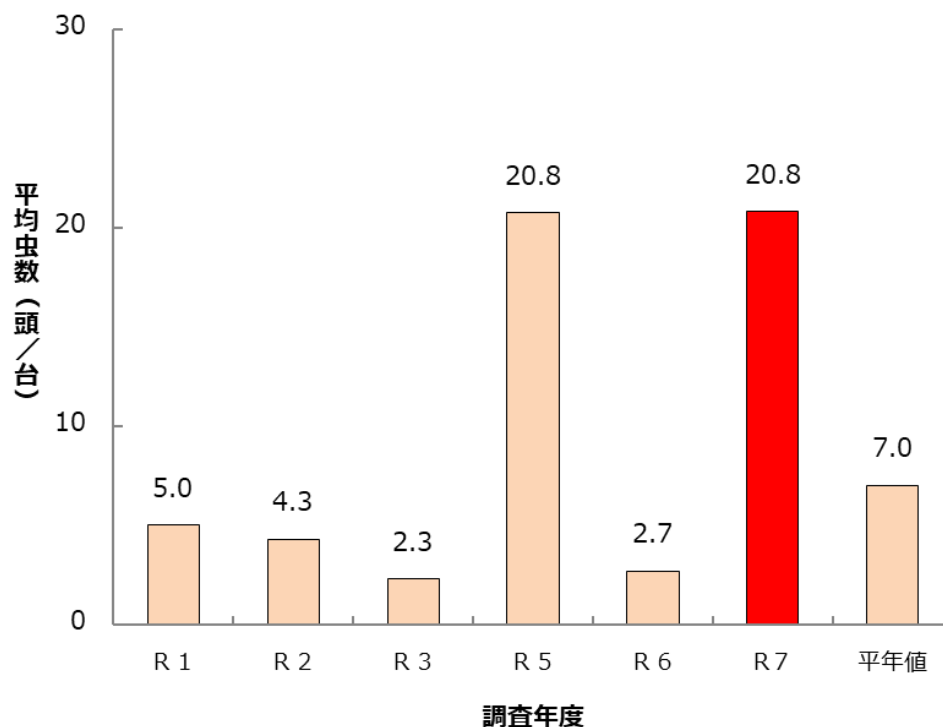


図2 クサギカメムシ越冬量の年次推移

注1：令和4年度は、鳥インフルエンザの発生により調査は未実施です。



図3 果樹カメムシ類（左からチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）



図4 果樹カメムシ類による被害果（ナシ）



図5 果樹カメムシ類による被害果断面（ナシ）

● お問合せ先

広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム

〒739-0151

東広島市八本松町原 6869

TEL : 082-420-9662 (直通)

